

特別支援学級における英語活動 －小学校での実践から－

杉山明枝¹⁾ 鈴木幸子²⁾ 小林省三³⁾

要 旨

2007年7月より、東京都江戸川区立二之江小学校特別支援学級（わかくさ学級）において英語活動を開始した。大半の児童は、楽しい雰囲気や音楽（音声やリズム）にすぐに興味を引かれ、生き生きと参加している。その一方で、幾人かの児童は、聞き慣れぬ音声やリズムに耳をふさぎながら視線を逸らしたが、流れのパターン化や、絵カードなどの視覚的な教材の導入と模型などを利用した提示の工夫、体験的な学習などを多く取り入れながら個に応じた支援を継続することで、それぞれが自分の好きな場を見つけて活動できるようになってきた。英語活動はコミュニケーション能力育成のためのツールとして大きな可能性を秘めている。今後も英語活動を通して、コミュニケーションの重要性やその面白さを、障害を持つ児童が十分味わえるよう支援していきたい。

キーワード：特別支援学級、自閉症・高機能自閉症、英語活動、コミュニケーション能力、英語の音声・リズム

I. はじめに

本研究では、2007年7月より開始された江戸川区立二之江小学校特別支援学級（以下わかくさ学級）における英語活動の実践報告と、これまでの活動が児童にどのように影響を及ぼしたのかに焦点を当て明らかにする。そしてその結果から、わかくさ学級の児童にとっての英語活動の意義や効果的な指導のあり方、ひいては今後の課題について明らかにしたい。

II. 特別支援学級と英語教育

まず、特別支援学級ならびに小学校英語活動に関する基礎知識を紹介する。

1. 特別支援学級とは

平成18年6月の学校教育法等の一部改正（平成19年4月より施行）により、これまでの「特殊学級」の名称が変更されたものが特別支援学級である¹⁾。学校教育法第75条では、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び幼稚園において、次の各号、即ち

1. 知的障害者、2. 肢体不自由者、3. 身体虚弱者、4. 弱視者、5. 難聴者、6. その他の障害のある者で特別支援

学級において教育を行うことが適当な者、のいずれかに該当する児童、及び生徒のために教育的支援を行うものとされている²⁾。特別支援学級では障害の種別ごとの少人数学級で、障害のある子ども一人一人に応じた教育を行う（小学校・中学校）³⁾。

2. 小学校における英語活動

グローバル化の進展に伴い、コミュニケーション能力の育成は子どもたちにとって急務の課題である。こうした世界情勢を背景に、2008年3月に小学校学習指導要領が改訂され、小学校第5学年及び6学年において外国語活動が新設された。これにより、2009年度から2年間の移行期間を経て、2011年度には全国の小学校で5、6年生を対象に外国語（英語）活動が開始されることになる⁴⁾。『小学校学習指導要領解説 外国語活動編』⁵⁾では外国語活動の目標を日本や外国の文化（学習対象言語とは限定しない）を体験しながら「知識やスキルよりも、コミュニケーションを図ろうとする態度」⁶⁾を養い、外国語の音に慣れさせるとともに、コミュニケーション能力の素地を養うこととしている。それは英語を話せるようになることが最終目標ではなく、英語をコミュニケーションの手段として使うことの大切さや楽しさを体験的に学びながら、英語活動を通して様々な体験をさせることによって、国際コミュニケーション能力

1) 東京都荒川区教育委員会

2) 東京都江戸川区立二之江小学校

3) 東京都江戸川区立二之江小学校

の素地（共生、自己決定能力、主体性）を育成することを意味する。

3. 特別支援学級と英語活動

特別支援学級の子どもたちにとっても前述の内容は例外ではない。障害のあるなしに関わらず、日常生活で外国人と関わる機会が増え、子どもたちはそれを克服し、自身の力で考え行動し、異文化圏の人々と共生していく力が求められる。

わかくさ学級には発達段階や障害の程度が大きく異なる児童が在籍しているが、一人一人の興味、関心に即した多様な活動展開（歌、リズム、ダンス、ゲーム、読み聞かせ、カード取りなど）が可能である英語活動は彼らにとって大変有効であると考えた。木村他⁷⁾は、英語のレッスンを自閉症児にとってコミュニケーション能力向上のために非常に有効であることを指摘している。また渡邊⁸⁾によると、「不登校児や自閉症児が楽しく英語活動に参加したり、ALT（外国人英語教師）と臆することなく話をしたりするという知見を得た」といい、障害を持つ子どもへの英語活動の有効性が指摘されている。こうした理論的背景が支えとなり、2007年7月より江戸川区立ニ之江小学校わかくさ学級において英語活動を開始することにした。

Ⅲ. 活動内容 2007年7月～2008年3月

英語活動開始当初の2007年7月から2008年3月にわたる英語活動の内容と児童の様子、成果等を述べる。活動回数は、祝日や各種学校行事などの影響から、21回（週一回、一コマ45分授業）となった。

1. 指導者

指導は、日本人英語教師（以下JTE: Japanese Teacher of English）⁹⁾の杉山明枝がT1（主たる指導者）として全て英語により行い、学級担任4名、及び介助員3名がT2（T1のサポート役）として、場面により個に応じて英語と日本語で支援する。

2. 年間計画

1) 目標

指導における目標は以下の2点である。

- (1) 楽しく英語活動に取り組み、英語を使う喜びを体験するとともに、英語活動を通じて外国と日本の言葉や生活・習慣等にふれ、親しむ。
- (2) 歌、リズム遊び、ゲーム、全身を使った活動とおして、英語の音声に慣れ親しみ、英語を聞

いたり話したりするための基礎を養う。

2) 年間指導計画

年間指導計画は、公立小学校の低学年で扱われている指導計画を基にJTEの杉山明枝が作成した。トピック選択は動機付けの面からも重要になるため、児童の生活に身近で、かつコミュニケーションを図りたくなるものを選択した¹⁰⁾。

3. 児童の実態

児童数は15名（1年：5名 2年：1名 3年：2名 4年：1名 5年：2名 6年：4名）であり、主な障害は自閉症や高機能自閉症などを含む広汎性発達障害やダウン症等である。共通の課題としては、コミュニケーション能力や自己コントロール力の獲得などがあげられる。加えて、わかくさ学級には、障害の程度や疾病、発作の状態などから、医療機関との密接な連携や、特別な注意と配慮が常時必要となる児童も複数在籍している。

4. 児童の様子

英語活動開始当初の7月は、歌やチャンツ（歌のようにメロディーはないが、リズムに合わせて表現を繰り返す、それらに慣れ親しませるもの）¹¹⁾に対しては大半の児童が興味を持った。しかし聴覚過敏や騒々しさが苦手な児童は耳をふさぐなどの行動を示した。

9月に入り、数字や果物、野菜の名前等、児童に身近な題材を取り入れたことで、日本語と英語を区別して（英語で）表現できるようになり始めた。発音が曖昧でもどの児童も臆せず積極的に参加しようとする姿が目につくようになる。誰の目にもほとんど関心がないかのように映っていた児童が突然挙手をし、“apple”と発言する姿も見られた。

10月には月、曜日、天気等身近な事象を導入したことで自信を持って英語で表現しようとしたり、大人とのかかわりを楽しめることが少なかった児童が微笑みながら“Good morning”（朝昼関係なく）と嬉しそうに近寄る姿が見られるようになってきた。

11月から12月にかけて、色や動物、またクリスマスといった季節的な行事を多く取り上げることでより多くの児童の興味、関心に即した内容になり、児童が積極的に活動できるようになり始める。自分の得意なことや関心の高い場面では、様々な方法で自己アピールをしていたが、多くの児童が“Here.”と挙手をすることが最も有効な手段であることを学ぶ

表 1. 年間指導計画 (2007 年度)

月	題材と目標	内容・基本表現 () 内は扱う語彙	歌
7月	あいさつをしよう	① Hello, nice to meet you. ② My name is ----- . What's your name? (I, your, am ,my など)	Hello Song
	おげんきですか? 数で遊ぼう (1 から 10)	① How are you? I'm fine and you? I'm fine, thank you. ② From one to ten	Seven Steps
9月	これ、英語でなんて言うの? 一野菜と果物	[What's this ?] (It's an) apple. (食べ物、果物)	Good-bye Song
10月	今日は何曜日?	[What day is today?] It's Sunday. (曜日)	The Days of the Week
	季節と月	[Which season do you like?] I like fall. November is fall.(月、季節)	Twelve Months
	お天気はどう? <お話タイム>	[How's the weather?] It's sunny today. (It's ... 天候の言い方) ハロウィーン	Weather Song
11月	色で遊ぼう	[Do you like blue?] Yes, I do. / No, I don't. Blue, please. Here you are. Thank you. (You are welcome.)	Sing a Rainbow Head,Shoulders, Knees and Toes
	好きな動物は?	[What animals do you like ?] I like dogs. いろいろな動物 : 鳴き声クイズ (動物の名前)	
12月	もうすぐクリスマス …クリスマスツリーを飾ろう	Merry Christmas! (クリスマスにちなんだ語彙)	We Wish You a Merry Christmas.
1月	君の干支は?	What is your eto? Who is the dragon? What is this year's eto? It's a mouse. (mouse, cow, tiger, rabbit, dragon, snake, horse, sheep, rooster, monkey, dog, wild bore)	Good-bye to You
	体の名前を覚えよう	Touch your nose. (nose, eye, lip, ear, mouth)	Head,Shoulders, Knees and Toes
2月	何の形?	[What shape is this?] It's a circle. (形を表す名詞)	Red, yellow, blue and green
	形で遊ぼう	[What is this?] It's a house (window, roof, wall) .	
	あれは何?	[What's that?] It's a desk. (教室にある物。机、時計等)	Bingo
3月	消しゴムかしてね	(Do you have an) eraser? (I want a) pencil. Stapler, please. (文房具)	ABC Steps
	お話を楽しもう	<i>The Very Hungry Caterpillar</i> (『はらぺこあおむし』)	
	英語お楽しみ会(総復習)	これまでの既習事項の復習	

ことができた。英語活動が大好きな児童 A は、活動が終わりに近づくと大声で“Oh no.”と言いながら JTE に駆け寄りしがみつくとという行動を示し始めた。

1 月から 3 月にかけての 3 学期に行った読み聞かせでは、話の内容を理解できる児童はごく限られていたが、ほとんどの児童がしっかりと聞き入っていた。英語活動最終日の別れ際に“See you.”と目に涙をにじませながら手を振る児童の姿が見られた。

5. 成果

英語活動が行われる英語活動日の朝になると、児童が「今日は ABC?」と確認してきたり、覚えた歌や踊りを家庭や休み時間等で歌ったり踊ったりして楽しんでいるなどの様子が見られ始めた。また学級担任には「おはようございます」、JTE や学校長には“Good morning.”というように対話の相手により英語と日本語を使い分けるコードスイッチング¹²⁾ができるようになった。さらに家庭では NHK のテレビ

番組（「えいごであそぼ」）を家庭で楽しんで観られるようになったり海外旅行をした際、自ら“Thank you.”“Good bye.”と言える児童も出てきた。さらに前述の“See you.”と涙をにじませながら手を振る児童の姿などから、彼らにコミュニケーションの素地が育まれていることが実感できた。

IV. 活動内容 2008 年 4 月～9 月

英語活動開始 2 年目の 2008 年 4 月から同年 9 月にわたる英語活動の内容と児童の様子、成果等を述べる。活動回数は、祝日や各種学校行事などの影響から、10 回（週一回、一コマ 45 分授業）となった。

1. 年間活動計画

2 ヶ月で 1 テーマを扱うなど、前年よりも内容を少なくし、余裕を持って指導ができるよう配慮した。作成者は JTE の杉山明枝、監修は学校長の小林省三並びに学級担任の鈴木幸子教諭が担当した。目標は

表 2. 年間指導計画（2008 年度）

月	テーマ	活動内容
4 月 5 月	<あいさつ①> (気持ち) (曜日・天気)	歌 <i>Hello Song Good-bye Song</i> Hello. I'm ~. Good morning. Good bye. Nice to meet you. How are you? I'm <i>good/happy/sad/angry/sleepy/sick/hungry/hot/cold.</i> 歌 <i>The Days of the Week, Weather Song</i> [What day is today?] [It's] <i>Monday/Tuesday/Wednesday/Thursday/Friday/Saturday/Sunday.</i> [How's the weather today?] [It's] <i>sunny/ cloudy/ rainy.</i>
6 月 7 月	<数で遊ぼう> (1~10 までの数) (果物・野菜)	歌 <i>Seven Steps</i> [What number is this?] <i>one, two, three, four, five, six, seven, eight, nine, ten</i> [What fruit (vegetable) is this?] [It's] (a) <i>tomato, apple, cucumber, orange, grape, banana, eggplant, green pepper.</i>
9 月 10 月	<これは何?> (色の名称) (動物)	歌 <i>BINGO チャンツ The Wiggle Book</i> [What color is this?] [It's] <i>red, yellow, pink, green, purple, orange, blue</i> [What animal is this?] [It's] (a) <i>dog, cat, elephant, panda, koala, bear, frog, cow, lion, pig, penguin, gorilla, mouse, sheep.</i>
11 月 12 月	<体に親しもう> (体) <クリスマスをお祝いしよう>	歌 <i>Head, Shoulders, Knees and Toes</i> Touch your <i>nose/eye, eyes/hand, hands/ear, ears /mouth/toe, toes.</i> 絵本 <i>The Snowman</i> 歌 <i>We Wish You a Merry Christmas</i>
1 月 2 月	<お話を楽しもう> (読み聞かせ)	絵本 <i>The Very Hungry Caterpillar</i> <i>Brown Bear</i>
3 月	<動物園を作ろう> (1 年間の復習)	歌 <i>1 年間に習った歌</i> Let's make my zoo. [What's this?] <i>Two lions.</i> [How many lions?] <i>Four lions.</i> This is my zoo.

前年と同様である。

2. 指導者

指導は、前年同様 JTE の杉山明枝が T1 として全て英語により行い、T2 の学級担任 4 名、及び介助員 3 名（以下 T2）が場面により個に応じて英語と日本語で支援する形態に変化はないが、昨年よりも学級担任が T1 として登場する場面が増えた。

3. 児童の実態

6 年生が 4 名卒業し、1 年生が 7 名加わったことで人数が 20 名に増えた（1 年：7 名 2 年：6 名 3 年：2 名 4 年：2 名 5 年：1 名 6 年：2 名）。自閉症や自閉的傾向、広汎性発達障害等の児童が過半数を占め、他にはダウン症や ADHD などの障害を持つ児童も数名在籍している。1,2 年生が 3 分の 2 を占めることから、学級の実態も大きく変化した。

4. 児童の様子

4 月から 5 月にかけては、昨年 7 月当初の内容を多く取り入れながら 1 年生の参加を促した。理解力の高い児童に対しては、個別に高度な課題（クラスメートの名前をアルファベットで聞き取らせ誰の名前かを当てさせるなど）を提示することで知的な好奇心を満たした。

6 月から 7 月には教材教具の工夫と体験的な活動を多く取り入れることで、1 年生も見通しを持ちながら活動を楽しめるようになる。わかき学級の児童は歌を大変好む傾向にあるが、特に昨年から取り上げている BINGO という曲を気に入り、休み時間にも楽しそうに歌う児童が出てきた。2 学期に入り 9 月になると英語でコミュニケーションを取り合う相手が T1 から T2 へと広がる。半数程度の児童が担任の話す英語を聞き取り、指示されたとおりに課題を遂行できるようになった。

5. 成果

1 年が経過した現在では、英語活動には、ほとんどの児童が興味を待って活動にも積極的に参加している。1 年生が「英語は？」と問いかけてきたり、友達と一緒に英語の歌を口ずさむ姿が見られるようになった。月や曜日、天気、色、動物の名前などが英語で表現できるようになってきた児童もいる。また送り迎えをしている母親に“See you.” “Good-bye.” と言いながら別れる児童や、校門に立つ学校長や担

任に“Good morning.”と挨拶する児童が増えた。さらに、家族に英語で話しかけてきたり、幼児向けの英語の番組を楽しめるようになったなど、児童にとって英語が身近に感じられるようになり、さらに日々の生活や人とのコミュニケーションもより豊かなものになりつつある。

V. 授業実践例

これまでの取り組みを公開する意味で、2008 年 10 月 8 日に実施した江戸川区小中学校教職員を対象とした研究協議会での授業を実践例として紹介する。

1. 活動名

「これなあに？」

2. 活動目標

- (1) 日本語と英語の音声やリズムの違いを感じながら、英語活動を楽しむ。
- (2) 自分の名前、身近な物、色、曜日、天気などが、JTE の音声を真似ながら表現できる。
- (3) JTE の語りかけや簡単な質問のおおよそがわかり、英語や日本語、態度等で応じられる。
- (4) 英語（活動）を通して JTE や友達との関わりを十分に楽しめる。
- (5) 英語で簡単なあいさつができる。

3. 英語活動指導案

作成者は JTE の杉山明枝、監修は学校長の小林省三、並びに学級担任の鈴木幸子教諭が行った。

4. 参加者の意見、及び感想

授業終了後に実施した研究協議会での意見は、子ども達と教員が一体となって生き生きと活動している、多様なアクティビティが一時間に盛り込まれ、楽しそうに参加している子供たちの様子がほほえましかったなどの肯定的な意見が大半を占めた。また少しずつではあるが子ども達に着実に英語が身につけている様子が感じられた、特別支援学級の児童の特性を生かし、歌や踊り、ゲームなど、彼らだからこそできる活動を積極的に取り入れているなどの意見も聞かれた。

VI. 考察

わかき学級の児童にとっての英語活動とは、外国語を用いてコミュニケーションの大切さや楽しさ

表 3. 英語活動指導案

time	児童の活動	JTE (T1) の活動	学級担任 (T2) の活動	内容
0	あいさつ	Hello. Let's start.	児童の側に入り、一緒に元気よく挨拶。	元気にあいさつをして開始。
5		I'll pass you the name tags.	児童と同様に名札を受取り学習者としての模範を示す。	児童に名札を渡すことで、英語活動の開始を意識させる。
10	前回の復習	<p><あいさつ> Hello. Let's sing Hello song. <感情表現> How are you? I'm/happy/sad/angry/ sleepy/tired/hungry/hot/ cold. <曜日> Let's sing The Days of the Week. "What's the day today?" "It's Wednesday." <天気> "How's the weather today?" "It's sunny." Let's sing Weather Song.</p>	<p>児童が歌えるよう補助をする。</p> <p>T2 (高木) と JTE がデモンストレーションをし、児童に答え方を示す。</p> <p>児童が元気よく歌えるよう一緒に大きな声で歌う。 曜日のカードを正しく並べられない児童を支援する。</p> <p>英語の天気表現が分らない児童を支援する。 児童と体を動かしながら楽しく歌う。</p>	<p>全員で Hello song を 2 回歌う。</p> <p>感情を表す語彙を使い、絵を見ながら自分の気持ちを表現する。</p> <p>曜日の確認。始めに歌を歌い、次にランダムに黒板に貼られた曜日のカードを正しく並べ替える。</p> <p>絵カードを見ながら、当日の天気を表現する。 体を動かしながら歌う。</p>
20	コミュニケーション活動	<p><いろいろな動物> What's this ? It's (a) dog (cat, elephant, panda, koala, bear, frog, cow, lion, pig, penguin, gorilla, mouse, sheep).</p>	<p>児童と一緒に練習する。 英語の動物表現が分らない児童を支援。</p>	<p>動物の名称を、絵カードを見ながら確認する。</p>
25		<p><Back to Front Game> Let's play Back to Front game. What's this?</p>	<p>T2 (齊藤) と JTE がデモンストレーションをし、児童にゲームの方法を示す。T2 (鈴木) が指名し、答えさせる。</p>	<p>動物の絵カードを 3-4 枚裏返して掲示し、めくらずにどのカードかを推測させる。</p>
30		<p><BINGO の歌> Let's sing BINGO.</p>	<p>T2 (山崎) が農夫の姿をして登場。歌詞の中の farmer の意味を認識させる。</p> <p>他の T2 は児童と共に楽しく歌を歌う。</p>	<p>黒板に貼られた BINGO のアルファベットカードを見ながら歌う。T1 がアルファベットカードを順番に提示することでアルファベットを意識する。</p>
33		<p><いろいろな果物・野菜> What's this? It's (a) tomato (apple, lemon, orange, grape, eggplant, green pepper, corn, cucumber, banana).</p>	<p>児童と一緒に練習する。 英語の果物・野菜表現が分らない児童を支援する。</p>	<p>模型を見ながら野菜・果物の名称を確認する。</p>

35		<Pick up Game> T2 (鈴木) を英語の面でサポート Let's try.	T2 (鈴木) Two apples, please. Here you are. Thank you. T2 (鈴木) が指名。 他の T2 は英語の果物・野菜と数字表現が分らない児童や自信のない児童を励ますとともに挑戦するよう促す。	T2 (鈴木) が英語で果物・野菜とその個数を渡すように指示する。児童はそれを聞き取り T2 (鈴木) に渡す。この活動は T2 (鈴木) が行い、T1 は英語面でのサポートをする。
43	まとめ	It's time to say good-bye. Let's hold hands and sing Good-bye song. Thank you. See you.	英語活動の終わりを意識させながら、児童とともに歌う。	大きな円を作って手をつなぎながら Good-bye song を歌う。

を体験的に学べると共に、英語に対する興味や関心が高まる機会である。また、日本人英語教師である JTE との関わりを通して、英語の楽しさや音声、リズムに慣れ親しむ場であると共に、大人や友だちと楽しさや喜びを共感しあえる大好きな活動であるといえる。英語活動には、わかき学級の児童が最も好む活動の一つである体を動かす表現遊びやリズム遊びが豊富に取り入れられていることがその一因であると考えられる。

Ⅶ. 結論

これまでの実践を通し、わかき学級の児童への効果的な指導のあり方として次のような結論を得た。

- (1) 児童によっては言葉が出ない、かすれ声で聞き取れないことがあるため、発音の正誤や声の大小など発語のみに焦点を当てるのではなく、「積極的にできた」ことを評価する。実際に声が出ていなくても必要以上に働きかけたりしない。口元を見ると、何とか発声しようと努力をしているといった場面を見つけそれを賞賛することが次の意欲につながる。
- (2) 児童の混乱を避けるため、毎時間の授業で使う教室英語、ジェスチャー、表情など、授業の一連の流れをパターン化する。
- (3) 授業の開始と終了を明確にする。英語活動に入る前、担任が T1 である JTE と手と手 をタッチすることでこれから英語活動が始まることへの認識と期待感を持たせる。
- (4) 授業開始時に JTE がネームタグ(名札)を手渡し、

握手をすることで教師と児童の信頼感、一体感が生じ、授業が円滑に進む。

- (5) 絵カードなどの視覚的な教材の導入と模型などを利用した提示の工夫、体験的な学習などを多く取り入れながら個に応じた支援を継続することで、それぞれが自分の好きな場を見つけて活動できるようになる。

Ⅷ. 課題

これまで全学年一斉授業を展開しているが、今後は各学年や児童の症状に応じた指導法や指導計画の開発と作成が課題である。また、脳科学の分野における分析と解明も進められなくてはならない。特別支援学級における小学校英語活動に関する先行研究はほとんど存在せず、過去の事例から得られる知識が乏しい。また科学的根拠も不足している。今後さらに研究を重ね、新たな教授法の開発など技術面の向上も図られなければならない。

Ⅸ. おわりに

わかき学級における英語活動は、英語の音やリズムに親しみながらコミュニケーションの楽しさを実感すると共に、それらをお互いに分かち合える場として、児童の大好きな時間となっている。コミュニケーション能力育成のためのツールとして大きな可能性を秘めている英語活動と特別支援学級の児童との関わりに注視しながらさらに研究を進めてゆきたい。

参考・引用文献

- 1) 東京都教育庁学務部義務教育心身障害教育課 編集. 特別支援教育推進のためのガイドライン 東京の特別支援教育～特別支援教育体制・副籍モデル事業等報告書～. 東京都教育委員会, 2007, p.4.
- 2) 前掲書 1) p. 7.
- 3) 文部科学省初等中等教育局特別支援教育課 編集. 子ども一人一人の教育的ニーズにこたえます! 特別支援教育. 文部科学省, 2007, p. 1.
- 4) 文部科学省. 小学校学習指導要領解説 外国語活動編 1., 東洋館出版社, 2008, p. 7.
- 5) 前掲書 4) p.7.
- 6) 安彦忠彦 監修. 小学校 学習指導要領の解説と展開 外国語活動編. 教育出版, 2008, p. 19. .
- 7) 木村隆, 木村尚美, 古川宇一. 息子の小学校6年間の課題と成果. 情緒障害教育研究紀要. 26, 2007, p. 1-10.
- 8) 渡邊寛治. 小学校英語教育の現状と期待 (特集 小学校英語教育). 教育時評. 10, 2006, p.8-11.
- 9) 松川禮子. 明日の小学校英語教育を拓く. アプリコット, 2004, p. 177.
- 10) 満尾貞行. 英語活動における教材の工夫・・・絵本の利用. 教材学研究. 16 卷, 2005, p. 67-70.
- 11) 前掲書 6) p. 63.
- 12) 岡秀夫 監訳. 外国語教育学大辞典. 大修館書店, 1999, p. 70.